

【2021 年度 第 1 四半期決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

|       |                     |                      |
|-------|---------------------|----------------------|
| <日 時> | 2021 年 8 月 12 日 (木) | 15 : 00 ~ 16 : 00    |
| <出席者> | 明治ホールディングス(株)       | 取締役専務執行役員 C S O 古田 純 |

**Q1: 各セグメントの売上計画に対する進捗と見通しを教えてください。**

A1: 食品セグメントについては、計画に対してプロバイオの売上回復が遅れていますが、ニュートリション、チョコレート・グミ、業務用食品は前年を上回り、順調に推移しています。プロバイオの売り上げをブランド別に分析しますと、R-1 は前々年を上回っています。今後は前年比でも徐々に回復すると考えています。課題は LG21 です。今年は発売 21 周年ですので、マーケティングを強化し、売上回復を図ります。加えて、新商品の開発も着実に進め、プロバイオ全体の底上げを目指します。

医薬品セグメントについては、国内医薬品が受診抑制の影響を受けた前年から回復傾向にあります。2Q 以降、アストラゼネカ社の COVID-19 ワクチンに関する保管・配送の業務受託収入が見込まれます。加えて、インフルエンザワクチンの生産も順調に進んでいますので、セグメント全体としては計画通りに推移する見通しです。

**Q2: 食品セグメントでは、プロバイオが苦戦している中でも上期の計画を修正していませんが、計画を達成することは可能ですか。**

A2: 1Q はプロバイオの減収がセグメント全体の利益に大きく影響しましたが、足元では回復基調にあり手ごたえを感じています。2Q 以降、プロバイオは前年比で徐々に回復を見込んでいることに加え、プロバイオ以外の好調な商品の成長により上期の計画達成を目指してまいります。

当社としてはプロバイオも含めたコア事業全体として売り上げを伸ばしていくことにより、利益成長を実現したいと考えています。商品にはプロダクトライフサイクルがあるため、既存品だけでなく新商品の展開にも取り組んでいくことにより、安定した売上成長と利益創出を目指します。

**Q3: 新型コロナウイルス感染症が再拡大していますが、今後のマーケティング活動や新商品投入に影響はありますか。**

A3: 感染拡大が続けば、回復傾向にあった業務用食品の売り上げに影響したり、大袋タイプの菓子の売り上げが拡大する可能性が考えられます。また、マーケティング活動は一定の制限を受けることも想定されますが、状況に沿った最適なマーケティング活動を行っていきます。

新商品投入には影響しないと考えています。前年はコロナ禍で新商品数も少なかったですが、必ずしも既存商品だけで売り上げを維持・拡大し続けられるわけではありません。今後の成長を見据え、付加価値の高い商品を定期的に投入して活性化していく考えです。

**Q4: 食品セグメントにおいて、原材料コストが計画を上回るリスクはありますか。原材料コストの上昇にはどのように対応しますか。**

A4: 年間 22 億円の原価アップを見込んでいますが、現下の状況を踏まえると、計画以上の原価アップになる可能性があります。特に高騰している油脂に対しては、価格改定で対応することを検討しています。砂糖も高騰していますが、一般的なチョコレートに比べて砂糖をあまり使わない高カカオチョコレートが好調であり、影響は限定的とみています。海外乳原料については、脱脂粉乳の価格が中国を中心に需要が旺盛なこともあり高騰しています。ただし、海外乳原料は一定の在庫を持っているため、今年度はそれほど影響しないものと考えています。

**Q5: 2Q 以降のコストコントロールの考え方を教えてください。**

A5: 長期化するコロナ禍においては、効果的な費用投入が肝要です。特に、マーケティング費用は成長のために必要な投資でもありますので、積極的に投入して売り上げを伸ばしていく考えですが、売り上げや利益の水準を見ながら、適正なコストコントロールはしていくつもりです。

**Q6: 医薬品セグメントの海外医薬品は 1Q 減益でしたが、2Q で挽回できますか。**

A6: スペインやインドネシアなどの子会社は、受診抑制などの影響があつて苦戦しました。一方でインドのメドライクの CMO/CDMO 事業は好調に推移し、売り上げ・利益ともに確保することができました。世界的に感染拡大が続く中、2Q も一定程度の影響を受ける可能性はありますが、好調なメドライクの CMO/CDMO 事業を伸ばしていくつもりです。

**Q7: KM バイオの COVID-19 に対する不活化ワクチンの開発状況を教えてください。**

A7: 第 1/2 相臨床試験は順調に進んでおり、次の臨床試験を準備中です。順調に進めば、予定している 23 年度の上市がより早まる可能性もあります。同時に 22 年春には生産が開始できるような体制整備もしています。

以上